

絵本専門士に聞く 絵本の楽しみ方

絵本に関する高度な知識、技能、感性を備えた絵本の専門家であり、子育て中のママでもある佐藤由紀枝さんに、絵本の楽しみ方について聞きました。



絵本専門士 佐藤 由紀枝さん
宮崎学園短期大学非常勤講師。図書館司書。読み聞かせや講演・講座（選書・修理など絵本に関することから、子育てや暮らしについて）など多岐にわたり活躍。2児の母。

絵本は子どもとの コミュニケーションツール

「絵本って便利」というのが、子育てを始めて最初に思った感想でした。初めての子育てにとまどい、日中、赤ちゃんと二人っきりの密室で過ごすというかわからない

かったんです。テレビばかり見せるわけにもいかないし…。そんな時、「絵本はコミュニケーションのツールとして使える」ことに気づきました。絵本には美しい日本語の言葉や表現があふれているので、「言葉のシャワー」をかけてあげられます。

楽しんだり、ページをめくる音や紙を触った感触を楽しんだりと赤ちゃんそれぞれのやり方で興味を持ってくれます。「読み聞かせをしなくては」と気負わず、「一緒に楽しもう」という感覚でいいと思います。

お膝に抱っこして 読んであげるのがおすすめ

赤ちゃんの視力は月齢とともに発達していきます。7〜8か月はまだ発達の途中なので、ママやパパのお膝の上など、近い距離で読んであげるといいでしょう。読んでくれる人の顔を見上げて表情を

お気に入りの絵本は その子の宝物に

子どもによって気に入る本は異なり、気に入った本は何度も読みたがりです。大人が好きな曲を何度も聞くのと同じです。幼い子ども特有の「知っていることを確認したい、安心したい」という気持ちの表れでもあります。その時

は何度でも読んであげましょう。好きな本に出会うまでは図書館を利用していろいろな絵本を試して、お気に入りの本に出会えたら買ってあげるといいと思います。すり切れたページ、落書きした跡など、自分だけの絵本には子どもの成長体験が刻まれ、その思い出は大人になっても残っています。絵本には、当時の情景やおいしいなどが記憶されるのだと思います。絵本を通して豊かな時間が心に刻まれていくといいですね。



絵本専門士・佐藤由紀枝さんが選んだ “お子さんと読みたい4冊♪”



“赤ちゃんから小学生まで人気”で賞



はらぺこあおむし
作/エリック・カール
訳/もりひさし
(偕成社)

小さなあおむしがチョウへと変化する様子を描いた絵本。指を入れたくなる穴あきの仕掛けや、鮮やかな色彩に赤ちゃんも興味津々。また、曜日や数字の概念、美味しそうな食べ物(食育)など、大きくなって楽しめる要素がいっぱい。メロディーのせて楽しむのも◎。

“寝かしつけにいい”で賞



もりのなか
文・絵/マリー・ホール・エツ
訳/まさき りこ
(福音館書店)

紙のぼうしをかぶり、おもちゃのラッパをもった“ぼく”は、森に散歩に出かけ、動物たちに出会います。モノトーンで描かれているので地味に感じるかもしれませんが、幼児の空想世界の広がりを感じることができる絵本です。落ち着いた声でゆったりと読んでみて。



“じっくりおうちで読みたい”で賞



バムとケロのにちょうび
作・絵/島田 ゆか
(文溪堂)

サッカーも砂遊びもできない雨の日曜日。こんな日には、おうちでゆっくり本を読みたいのだけど…。読む度に新しい発見がある、細かく描き込まれた愉快な絵が楽しいシリーズの1作目。ゆっくりじっくり絵本を楽しんだ後は、山盛りのドーナツを手作りしてみても？

“大人も懐かしい”で賞



ぐりとぐら
作/なかがわりえこ
絵/おむらゆりこ
(福音館書店)

50年以上読み継がれている定番絵本。読んでもらった記憶のある方も多いのでは？ 野ねずみのぐりとぐらが作るカステラの美味しそうな匂いに誘われ、森の動物たちが集まってきて…。歌うように読む部分は、気負わず自由に楽しく読んでみましょう。